

大阪河内材通信

2016.6 Vol.30



コバノイシガグマ (コバノイシガグマ科) 撮影地：高槻市田能地区

表紙の写真は、里山などで比較的良好に見かける「コバノイシガグマ」というシダを、光源をバックに撮影したもので、シダの葉脈が美しい造形を作り出しています。組合では、湿潤な環境で繁茂が期待できるシダを移植して、地被的役割を担えるかどうかの実験を行っています。

Contents

ご挨拶	2	建築事業部のホームページが優秀賞を受賞	4
林政情報 森林・林業基本計画(案)の見直しについて	2	おおさか河内材を用いたデイサービス施設が完成	4
新たな分野への挑戦 ～建設コンサルタント事業への進出	2	建築事業部からのお知らせ	5
企業との連携による森づくり「アドプトフォレスト」	2	木根館 ラ・フォレスタ イベント情報	5
広葉樹が見直されています	3	歴史が息づく富田林寺内町へ	6
コンテナ苗による造林を行いました	3	「まち」のこども達にヒノキの香りを 積み木寄贈	6
木材共販所で品評会を催しました。	4		



栗本組合長

組合長の栗本修滋です。

今年の桜は例年より開花している期間が長く感じられ、桜の花のもとで入園・入学式を迎えられた新入生も、たくさんおられたのではないのでしょうか。

組合も本年5月31日に第15期の事業期を終え、現在、決算作業に注力しています。

さて平成27年度は組合にとって、大きな分岐点を迎えた年でした。昨年の10月に組合内部で、産業廃棄物業が継続できなくなる事案が発生しましたので、木くずを処分する廃棄物処分業と廃棄物運搬業の廃止届を関係行政機関に提出しました。

このことが組合に与えた衝撃は想像以上であり、事業を担当して

いた職員の落胆ぶりは、声をかけることすら躊躇させられる状況でした。

組合員の皆さまにも大変なご心配をおかけすることとなり、深くお詫び申し上げます。

本件を真摯に受け止め、役職員のコンプライアンスの向上に、なお一層取り組みます。

経営は困難な状況ですが、役員は「林業を通して大阪の山を守り、森を育てる」精神を貫くことにより、組合員の方々にご奉仕するとともに、職員60余名が働く場を守る決意を強固にした次第です。気持ちを切り替え、廃棄物業に変わる新たな事業開拓にまい進する所存です。

本年4月から大阪府の森林環境税が施行されましたので、しっかりと対応して森林の防災機能を発揮させるとともに、林業基盤を強化させて府民のご負担に應える必要があると考えております。

組合員の皆さまにおかれましては、組合経営の健全化に引き続きのご支援を、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

林政情報

森林・林業基本計画(案)の見直しについて

我が国の森林・林業施策の基本的方針を定める森林・林業基本計画は、森林・林業基本法の規定により、おおむね5年ごとに変更することとされています。現行の基本計画は平成23年7月に定められました。以降の森林・林業をめぐる大きな情勢の変化とともに、さらに5年後には、戦後造林されてきた人工林の約7割が主伐期を迎えることから、我が国の森林資源を有効活用すると同時に、計画的に再造成の検討が求められるなど、過去に経験したことのない新たな段階に入ってきています。

資源状況、地方創生に向けた林業・木材産業の役割、木材需要の変化や新たな動きなどを踏まえて、民間の活力を生かしつつ、効率的・効果的に施策を展開し成長産業の実現化を目指すため、現在、その変更について林政審議会において審議が行われており、本年5月を目途に、変更することとしています。

新たな分野への挑戦
建設コンサルタント事業への進出

大阪府森林組合は森林の施業を通じて、様々な知識や技術を蓄積してきました。特殊伐採業務や庭木の剪定などの業務を数多くこなすことを通じて高度な伐倒技術も培われました。それが新たな分野での仕事を受注することにつながり、組合の運営の支えになってきている事業もあります。

そうした経験的に獲得できる技術ばかりではなく、経営面では、さらに新しいことに取り組む必要があります。従来から森林作業道の開設など、森林土木事業として行っていますが、今後は治山・林道・森林環境保全など広く森林土木全般の計画・設計の業務の取扱いを目指します。

そのため新たに森林土木分野の技術士資格を持ち、自身でも技術士事務所を開設されていた西川静一氏を技術管理者として招へいするなど準備を整え、5月12日、所管庁の建設コンサルタント登録を済ませました。

建設コンサルタントとは、国土交通省が所管する開発・防災・環境保護などに関して、計画・調査・設計を中心とする業務です。

西川氏には、さらに森林環境税に関連し、持続的な森づくりに必要不可欠な事業対象地の全体計画や各種の施設設計にも、その力を発揮していただくことで、新たな組合の事業開拓に期待を寄せています。



「森林を調査する西川氏」

西川氏のコメント

「森林土木分野の技術は、一般土木分野にはない特性があります。森林が現場であり、森林の利用と保全を両立させることが目的であり、地形・地質・土壌・水文・植生の多様な自然的条件を的確に把握し、それらに逆らわないように工夫し、かつ経済性も考慮しなければなりません。まずは森林に対して謙虚であることが重要だと考えています。

これからも、府内の森林環境の向上を目指し、森林土木コンサルタント業務に尽力してまいります。



ザ・パック様のアドプトフォレスト活動

企業との連携による森づくり
「アドプトフォレスト」
～高槻に続き四条畷でも～
ザ・パック株式会社様の取り組み

平成18年から始まった、大阪府が企業と森林所有者との仲を取り持ち、地域の森づくりを推進する「アドプトフォレスト」。

今では府内各地で森づくりが進められており、大阪府森林組合でも地元調整や企業の森づくり活動に対する、技術指導や各種サポートを行ってまいりました。

その中で平成21年から5年間、高槻市原城山地区において、森づくりを行っていた「ザ・パック株式会社」様が、新たに四条畷市下田原地区にある「四条畷ふれあいの森」をフィールドに、アドプトフォレスト活動を実施していただく運びとなりました。

活動に際し、高槻市原城山地区



「アドプトフォレスト調印式(写真前列左から大阪府竹内副知事、ザ・パック(株)木森専務取締役、栗本組合長、四条畷市 土井市長、大阪府議会 橋本議員)」

でのお付き合いから、四条畷においても、当組合に活動のサポートをお願いしたいと強い要請をいただき、4月28日にザ・パック様、大阪府と四条畷市、当組合の4者による調印式を執り行いました。

対象フィールドとなる「四条畷ふれあいの森」は約9haで、野鳥の森やきこりの森、紅葉の森などゾーン分けされた市民に愛される森でしたが、近年、樹木が繁茂し、整備が行き届かない状況が続いていました。

そこで陽が差し込まなくなった林床に光を入れ、森づくりの過程で伐採された木材を用いて、階段など木製施設を整備するなど、もう一度、市民が集う森に再生する計画としています。

当組合では、ザ・パック様よりご指名をいただいたことに感謝申し上げますとともに、様々な方々と協働して行ってきた活動が、このような形で新たな森づくりに発展したことに、大いなる喜びを感じております。

新たなフィールドである「四条畷ふれあいの森」においても、期待を裏切ることもなく、しっかりとサポートさせていただくとともに、当地での活動が、次の新たな森づくりにつなげられるよう努力してまいります。

広葉樹が見直されています



北摂には天然林が残る

クヌギやナラが育つ樹林は天然林と呼ばれることがあります。昔、薪や炭、シイタケの原木を得るために植林されたところも多く、そういう意味では「人工林」と呼ぶほうが正確かもしれないと考え人も少なくありません。

とりわけ大阪北摂地域には、未だにクヌギやナラ林が見られ、その中でも能勢町では、町域面積の77%を占める広大な森林のうちスギ・ヒノキが植林された森林は35%に過ぎず、残りはクヌギやナラ林、マツ林が広がっています。



萌芽するクヌギ

天然林の現状

しかしクヌギやナラは、一般家庭における燃料の主役の座を化石燃料やガスに譲った燃料革命以後

は、手入れが行き届かなくなりました。本来であれば炭やシイタケ原木として使い勝手の良い口径サイズで伐採して、萌芽更新をさせたいうえで、また10〜15年後に伐採というサイクルを繰り返していたものが伐採されず、大系化の一途をたどった結果、最近ではカシノナガキクイムシの被害により、枯死する高齢の個体が激増しています。



高齢樹の立枯れ

樹木が枯死すると徐々に枝条が落下し、最終的には倒木の危険が高まります。特に高齢樹の倒木は、時として人的な被害を引き起こすきっかけにもなりかねません。

改めて見直される「薪」

このように荒廃の一途をたどるかと思われたクヌギ・ナラ林に光が射したのは、健康で環境に優しい暮らしを求める人々が自宅の暖房用の、また本場のピザを提供するレストランが調理用の燃料とし

て薪の使用を始めたことが契機とも言えるでしょう。



薪を使用するピザ窯

能勢町においては、平成27年度の地方創生予算を用いて、組合が販売する薪や町内で設置する薪ストーブに補助金制度を設けていたが、またPRイベントの開催を行うなど、町内産の薪に関する事業を実施されました。



PRイベントの様子

東日本の震災の影響はしいたけ原木まで

さらにシイタケ原木の一大産地であった東北地方を襲った東日本大震災は、福島原発事故を誘発し、拡散した放射能が森林をも汚染したため、現在でもシイタケ原木の生産は完全ストップの状況です。



シイタケ原木の生産

そのような状況のなかで、大阪府内に存在するクヌギ・ナラ林からシイタケ原木を生産し、供給する試みを行ったところ、需要を掘り起こすことに成功し、顧客の獲得につながりました。

見直されるクヌギやナラ林ですが、萌芽更新が可能な時期に伐採することで、利用用途は広がります。場所や条件にもよりますが、シイタケ原木に使えるような太さの樹林であれば、組合で立木を買わせていただくことも可能です。一度、組合にご相談ください。

コンテナ苗による造林を行いました

従来、造林に使用する苗木は、2〜3年程度苗畑で育てて、出荷の際、土をふるって造林地に持ち込まれることから「ふるい苗」とも呼ばれていました。

一方、海外では特殊なコンテナ容器を使って苗を育て、根鉢を付けたままの苗木を使用することが主流となっているようです。

この苗は「コンテナ苗」と呼ばれ、細い根を損なうことなく造林現場に持ち込むことができることから根づきが良好で初期生長が早く、盛夏や凍土する厳寒期以外は植栽が可能です。

組合では平成27年度の環境林整備事業において、被害地造林地にスギのコンテナ苗木420本を植栽しました。

その結果、コンテナ苗専用の器具を用いた作

業ではなかったものの、携わった作業員から、
① 効率的な植え付け作業が可能であったこと
② 苗木の根の取扱いが簡便で熟練者でなくとも植栽が可能

という意見がもたらされました。

一方、根鉢がついていることから持ち運びに手間と労力がかかるとの報告も受けています。

最近では、森林作業路を開設する現場が殆どですので、植林地が作業路の近くであればフォワーダなどで運搬できますが、それ以外の場所では運搬方法の検討が必要です。

他にも苗木代のコストダウンや、従来の苗の規格サイズには当てはまらない新たな規格を設定する必要があるなど、課題も残っています。

新たな林業技術でもあることから、今後の動向を注視し、情報収集に努めるものとします。



木材共販所で 品評会を 催しました。

大阪府森林組合では、木材共販所を府内産原木流通を担う重要な唯一の施設として位置付けています。

現在、木材価格は全国的にも低値での安定状態が続いており、木材販売手数料が収入の大半を占める共販所の運営も厳しい状況にあります。出材者及び買い手の方のご協力を得ながら、運営を行っています。

そのような状況を少しでも改善し、府内産木材の流通の活性化を目的として、木材共販所の「大阪府内産材優良材展示市」という特別市に合わせ、大阪府内産材優良材品評会を開催いたしました。

品評会の審査は、特別市の前日3月10日に、審査員として大阪府より南河内農と緑の総合事務所長谷川所長、千早赤阪村の松本村長（当日は所用で代理者が出席）、買い手方を代表し松葉久義氏と米川



大阪府知事賞
中小径木の部



大阪府知事賞
大径木の部

旭氏をお招きし、組合からも井関副組合長・中副組合長が加わり、厳正なる審査を行いました。

その結果、径級別に大阪府知事賞・千早赤阪村長賞・大阪府森林組合長賞を選出し、翌日の特別市で対象木材の出材者に授賞式を執り行いました。

それぞれ「大阪府知事賞」(株)松田建設工業様と大植善彦様、「千早赤阪村長賞」橋吉林業 橋本吉兄様、「大阪府森林組合長賞」矢倉庄治様と大植嘉貴様が授賞されました。



千早赤阪村長賞
大径木の部



千早赤阪村長賞
中小径木の部



大阪府森林組合長賞
大径木の部



大阪府森林組合長賞
中小径木の部

授賞式の後には開催された特別市で、授賞木材はそれぞれ高値で落札されました。

このような取り組みは、出材者の方の出材動機と励みにもなる一方で、高値での取り引きにつながることから、次年度以降も継続して実施していく予定です。

林業関係広報コンクールにて 建築事業部のホームページが 優秀賞を受賞

一般社団法人全国林業改良普及協会が主催し、今年度で第50回を数える林業関係広報コンクールは、森林・林業の振興に寄与することを目的に、地方公共団体をはじめ、森林組合や林研グループ、NPOなどを対象とし、各々が作成・運営する広報誌及びホームページの部門に分けて、広く作品の募集がなされていました。

大阪府森林組合では、広報誌「大阪しんりんくみあい通信」と建築事業部のホームページをエントリーしていましたが、審査の結果、建築事業部のホームページ「この木と暮らそう」が優秀賞を受賞しました。

受賞理由として、「質感のある写真をうまく使っていること」、「ユーザーを登場さ

せるなど楽しみながら閲覧できる」ことが評価されました。

森林・林業業限定とはいえ、外部からいただいた高い評価は、担当職員の自信につながりますし、それを契機に大阪府内産木材の理解と活用をさらに進め、よりよい広報ツールづくりに結び付けられるようにしたいと思います。

ぜひ受賞した建築事業部のホームページを一度ご覧ください。

組合のホームページ(<http://www.o-forest.org/>)から建築事業部のバナーをクリックしてください。



講評 写真の使い方がきれいで、非常に整っています。森林組合が制作した魅せるHPとして高く評価します。質感のある写真も多く、木造家屋や家具好きなら、見ているだけで楽しめます。ユーザーが登場している点も良く、楽しみながら閲覧できます。



おおさか河内材の構造材



建物外観

国の「森林整備加速化・林業再生事業」を活用し、「おおさか河内材」を用いた高齢者デイサービス施設が吹田市山田東地区に完成し、1月24日に内覧会が行われました。

木造2階建てで、シンボリックな大きな屋根を持つ、この施設を支える構造材の大部分に「おおさか河内材」が使用されています。また構造材を製材した後の辺材の有効活用を図るため、印象的な外観を形づくる、玄関アプローチを支える集成材（Jパネル）の

おおさか河内材を用いた デイサービス施設が完成

原材料として利用する試みも取り入れられています。

「おおさか河内材」の他にも、いろいろな国産の木材（クリ、カラマツ、タモ、サクラ）が取り入れられ、ここで働く女性のスタッフが帰宅したところ、お子さんから「お母さん、木のおいがするね」と言われたそうです。

「昨今、高齢者や子育て施設への木材利用を促す各種の施策が進められています。組合では、このような需要にきっちり対応することで、実績を蓄積しながらPRに努め、木材利用の拡大を図りたいと考えています。」

■建築概要

施主	特定非営利活動法人 ライフサポートりぼん
設計	Ms建築設計事務所
施工	コアー建築工房
建築面積	192.21㎡
延床面積	199.95㎡
構造材における府内産 認証木材使用量(割合)	24.79㎡(96%)



照明も木製

建築事業部からのお知らせ

「木のぬくもり推進事業」が開始

子育て施設の木質化へ補助

大阪府では平成28年4月からの4年間、「森林環境税」による新たな森林保全の取り組みとして、間伐材の利用促進対策が実施されます。具体的には、幼稚園や保育所、認定こども園などの子育て施設を改修する際の、床や壁の内装等を木質化するため、「子育て施設木のぬくもり推進事業」として、工事費等の50%を上限とした助成を受けることができます。

保護者の皆様からも高い評価

建築事業部では、すでに本事業の前身となる「一園一室木のぬくもり推進モデル事業」において、河内長野市内及び大阪狭山市内に於いて、床や壁の無垢材施工実績があり、園長先生や職員の皆様を始め、保護者の皆様からも高い評価を頂いております。お子様やお孫様が子育て施設に通われている組合員様がいらっしやいましたら、是非施設側へのご提案をお願い致します。



子育て施設の木質化（既施工済物件）

「空き家空き地管理事業」に取り組んでいます

住宅の7戸に1戸が空き家

人口減少に伴い、全国で空き家が増加しています。2015年の総務省の調査によりますと全国の空き家数は約820万戸、空き家率は13.5%と、ともに過去最高を記録。これは、住宅の7戸に1戸が空き家という状況です。

特定空き家には厳しい措置

平成27年5月26日に「空き家対策特別措置法」が完全施行され、市町村による空き家対策が本格化しています。適切に管理されず、倒壊の恐れや衛生上問題のある空き家を「特定空き家」に指定し、市町村が撤去や修繕を勧告・命令できることになりました。勧告を受けると固定資産税の優遇を受けられなくなります。

適切な管理のための巡回サービス

そんな中、建築事業部では「空き家・空き地管理事業」を地域限定（富田林市・河内長野市・南河内郡）で試験運用を開始いたしました。空き家を適切に管理すべく、建物の外装点検、庭木確認、近隣クレームの初期対応等、月1回の基本巡回サービスや、草刈り、剪定、建物修繕サービスに取り組みんでいます。また、空き家の所有者様よりご要望を受けた場合には、関係市町村が実施する「空き家バンク制度」と連携を図りながら、空き家の賃貸借やそれに伴うリフォーム

ムのご提案も進めております。組合員様のご実家やご親戚、近隣の皆様等、空き家の管理でお困りの方がいらっしやいましたら、ご紹介頂きますようお願い致します。

■料金表

種別	内容	月額料金	初期費用
空き家管理	月1回の基本サービス	3,000円	3,000円 ↓ キャンペーン中につき無料
空き地管理	月1回の基本サービス	1,500円	
オプション	内部点検・修繕・草刈等	別途お見積り	

■空き家・空き地管理事業 基本サービス

■基本サービス(外部のみ)			
建物外装点検	庭木確認	ポスト掃除	ごみ処理
看板設置	近隣挨拶	クレームの初期対応	管理報告書を郵送
オプション	通気換気・雨漏り点検・水道通水・郵便物転送・雨樋修繕・草刈・剪定等		

■建築事業部 ☎0120-630-854 公式サイト <http://www.sinrin.org>

木根館 ラ・フォレスタ イベント情報

新しいスタートを切った「木根館」

「木根館」を含む河内長野市立林業総合センターは、河内長野市の指定管理施設として森林組合が運営してきておりましたが、年度末の契約満了を前に、今秋、公募によるプロポーザルが行われました。結果、森林組合が指定管理者として選定され、引き続き運営することとなりました。

これを機会に、館内の雰囲気づくりやレイアウトなどにも工夫を加え、運営体制も一新するなど新たなスタートを切りました。



リニューアルした木根館

森林・林業に関する情報や今までのイベント・ワークショップ開催なども取り組んでいます。スタッフ一同、ご来館をお待ち致しております。

◇ワークショップ

施設名	イベント名	内容	開催日	定員	備考
フォレスタ	陶芸体験「植木鉢づくり」	陶芸工房南の酒向氏を講師に迎え、家型の植木鉢を作るワークショップ。(参加費2,600円 要申込)	平成28年6月26日	10名	予定
木根館	夏休み親子木工体験「ボードコール&石窯ピザ手作り体験」	アンソニーさんの手作りピザ体験と木製のボードコールを作る人気のワークショップ。(参加費1,100円 参加者多数の場合は抽選)	平成28年7月27日 8月27日	各日とも2部制各10組	予定
木根館	「河内材ヒノキで作る手作り木工体験」	ペンダントトップやチャームづくりができるワークショップ。(参加費各600円 先着順)	各月第3日曜日開催(詳細は問合せ)	10名～	予定
木根館	木工教室～ままごとキッチンづくり	おおさか河内材でつくる「チャイルドチェア」のキットを製作します。	平成28年2月21日	2部制各30名	予定

◇企画展

施設名	イベント名	内容	開催日	定員	備考
木根館	技和美的集い作品展	河内材で作る木肖切抜き画・からくり木工作品・能面・ウッドベニングなどの展示会。入館無料。	平成28年6月25日・26日	-	予定
フォレスタ	小山 亨 展	フォレスタで活躍する木工家具作家の個展	平成28年8月5日～8月28日	-	予定
フォレスタ	林 靖介 展	フォレスタで活躍する木工家具作家の個展	平成28年9月2日～9月25日	-	予定

木工室

中学生以上 200円/1時間
小学生まで 100円/1時間

●材料費は実費
●5時間以上利用の場合は1,000円を上限 (小学生は半額)

市条例の改正により木工教室の利用料金が変わりましたので、ご確認の上、ご利用ください。

室名	午前 9～12時	午後 13時～17時	全日 9～17時
大会議室	1,500円	2,000円	3,500円
小会議室	600円	800円	1,400円

施設内には大会議室、小会議室(和室)も完備しておりますので、各種会合、会議に是非ご利用をお願いいたします。

■ラ・フォレスタ
☎0721-72-0090
ホームページ▶<http://www.sinrin.org/foresta>

■木根館
☎0721-64-8151
ホームページ▶<http://www.sinrin.org/kinkonkan>

歴史が息づく 富田林寺内町へ

時は戦国時代。日本各地に「寺内町」と呼ばれる宗教自治集落が誕生しました。浄土真宗などの寺院や道場に接して形づくられた都市集落は、大名や領主などにより治められるのではなく、自治による確立を目指しました。富田林市にも、当時の面影を色濃く残す地区があり、今回は富田林市役所の北野部長に富田林寺内町の紹介をしていただきます。

大阪府内で唯一、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている「富田林寺内町」は、江戸時代に栄えた商家の古い町並みが残されています。

富田林寺内町は、室町時代末期の戦国時代に、京都興正寺の別院を核として作られた宗教自治都市です。江戸時代は幕府の直轄地となり、税免除などの恩恵を受け在郷町として発展しました。寺内町は、東西約400m、南北300mの楕円形で南北に6本、東西7本の道路が通され、道路の辻はほとんど直交せず「当て曲げ」と言われる手法で少しずつ見通しを妨げています。中でも、興正寺の前を通る城の門筋は「日本の道100選」にも選定されています。また、沿道には、重文指定された「旧杉山家住宅」「興正寺別院」があり、格子や虫籠窓を持つ古民家が立ち並び、江戸時代以前の面影を伝えています。



「じないまち雛めぐり」の1コマ

江戸時代の寺内町では、酒造りが盛んで、5軒の造り酒屋があり、幕末の俗謡には、「富田林市の酒屋の井戸には、底に黄金の泉が涌く。一に杉山、二に佐渡や、三に黒さぶ金が鳴る」とうたわれました。この歴史的なまちなみを活用し、地域に活力をとり戻そうと、地域住民による有限責任事業組合空家利活用推進機構「LELP まちかっつ」が組織され、地域の空家にレストランや雑貨店、ものづくり工房などの誘致に取り組んでいます。



昔の面影を色濃く残す建物

現在では、古民家の佇まいを残しながら「おおさか河内材」を用いて改装したイタリアンのレストラン、女性限定の町家のお宿や天然酵母のパン屋、自家焙煎のコーヒーショップ、雑貨、陶芸に加え、「おおさか河内材」を使用した古民家の新しい耐震補強工法のモデルハウスや手作り家具のお店、木工のお店など約30軒のお店ができています。(古民家の耐震や木材

に興味のある方は、「木(こ)くま館」へお越しください。

それぞれのお店は、この町の良さに魅かれて集まってこられた人ばかりです。ぜひ、休日の一日を富田林寺内町で過ごしてください。

＜交通のご案内＞
近鉄南大阪線「富田林駅」から徒歩10分
公共交通機関のご利用が便利です。お車でお越しの場合は、富田林市営東駐車場をご利用ください。



おおさか河内材で改装したイタリアンレストラン「oasi」

農林中央金庫のCSR事業
「まち」の子ども達に
ヒノキの香りを
積み木の寄贈

農林中央金庫大阪支店では、平成21年度から、社会貢献活動(CSR)事業として、木材利用促進と木育の目的で公共機関への木製品の寄贈を続けられています。

今回は大阪市立幼稚園に対して、おおさか認証材のヒノキで作った木製積み木セット58セットを贈呈されました。もちろん制作は当組合で、角は丸く仕上げ、小さなお子さまに安心して使っていただけるよう、全て手作りです。

およそA3サイズの木箱に19ピースが詰めてあります。寄贈時に幼稚園の先生方から「ヒノキの香りがすごくいい！たくさんの子供たちにこの香りを感じてもらいたい」と、驚きの声があがったそうです。



手づくりのヒノキの積み木



丸大食品
心に残る贈り物
丸大のギフトは、どなたにも喜ばれます

大阪府森林組合の皆様には特別価格でご案内申し上げます。同封のチラシをご覧ください。

丸大食品株式会社 中日本特販営業課
〒557-0063 大阪市西成区南津守2-1-10
TEL 06(4398)3038 FAX 06(4398)3063